

平成21年度第4回子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会 会議録

1 日 時 平成21年12月22日(火) 午後1時～午後1時40分

2 場 所 生駒市コミュニティセンター206会議室

3 出席者

(委員)

委員長 東谷 光雄

副委員長 大島 眞規

委員 川森 富美子

委員 辻野 トシ子

委員 山中 和幸

委員 下浦 暁夫

委員 西村 徹

委員 井上 宝

委員 徳田 周子

委員 吉村 邦彦

(事務局)

教育総務部長 大津輪 幹夫

教育総務課長 峯島 妙

教育指導課長 西井 久之

教育総務課課長補佐 辻中 伸弘

教育総務課 楠下 崇子

4 欠席者

委員 山本 公一

教育指導課課長補佐 井上 廣

5 議事内容(要旨)

(1) 第3回検討委員会の会議録の承認

(2) 学力育成に関する方策について

(3) その他

(委員長) 事務局から、事前に会議録と一緒に答申の案文も送付していただきましたので、ご一読いただいていると思いますが、これを基に第4次報告を提出することになると思いますので、よろしくお願いします。ご質問、ご意見等ありましたらどうぞ。

(委員) 学校現場での支援体制ですが、いろいろな形で支援の方が学校へ入り込んでいるようですが、子どもたちから見て一般の先生方と区別できるようになっているのですか。また、学びのサポーターは、子どもたちが質問や相談をしたら、一般の教職員と同じように対応してくれるような先生ですか。

(委員長) 名札は付けていますが、区別は出来ないと思います。子どもから見れば皆、先生です。学びのサポーターは有償の学生ボランティアで、すべてまかされているわけではなく、担任が授業をしていて、子どもから質問があつたり困っていれば、サポートするという感じです。

(委員) 提言案を読むと、効果的な人的支援が必要とありますが、幼稚園のことは「終わりに」の中で、5行にあっさりまとめられており、もう少し記載してもらいたいと思います。地域の教育力、家庭の教育力の弱さは、これまでの会議の中でも度々意見が出されたように重要課題です。幼稚園は、子どもたちが初めて集団生活を学ぶ場所ですし、保護者の幼稚園への期待も有ると思います。また、保護者にとっても初めての経験が多く、園や保護者同士のつながりを深める中で、ルールを学びながら子育てをされます。子どもにも保護者にも支援が必要だと思います。

最近、幼稚園の現場で感じることは、保護者、特にお母さんへの支援が必要だということ。子育てに疲れていたり、悩みがあっても友達がなく一人で抱え込んでいる人

や、幼稚園の子どもに下の子どもの世話を頼む人もおり、親が子どもに甘えるので、子どもは親の前では良い子でいて、幼稚園に来て甘えるということがよくあります。そのため保育が進まないという現状があり、子どもサポートセンターと連携して対応するなどしていますが、幼稚園にも人的配慮をお願いしたいと思います。保育園や小中学校もそれぞれ大変だと思いますが、幼稚園の現場も手一杯な状態です。

(事務局) 今回は、補習等、各学校でがんばってくださっていることがありますので、そういったことを中心にまとめたのですが、これまでの会議で、家庭教育や親育ての話が多く出ていましたので、「終わりに」でその話に触れました。30人学級の講師との懇談でも、小学校低学年の児童は、家庭で甘えられてない分、学校でわがままや甘えが出るという話は聞いています。家庭教育については、市では家庭教育学級等の取り組みもありますが、再度、何らかの形で記載させていただこうかと思えます。

ご発言いただいたように、幼稚園と家庭との連携等は重要な課題で、簡単に書けることではありませんし、幼稚園の問題は小学校へも影響すると思えますので、別の機会に検討してもらうのも良いのではないかと考えています。

(委員) 人間関係は、幼い頃から育てていかねばなりません、子どもの頃に親子、先生・生徒、先輩・後輩など、上下関係が無意識に植えつけられていくと思えますので家庭での関係から見直すことは良いことだと思います。最近は親子でありながら疎遠であったり、つながっていないながら何か寂しいものを感じるような事件が多いように思いますが、感情が揺らぐと的確な判断が出来ず、切れやすくなるということもあるのではないのでしょうか。衝動を抑えられるということは大切だと思いますし、勉強にも良い影響が表れると思います。地域、学校、家庭がそれぞれの役割を果たせば、子どもの個々の性格が素直に現れ、思いやりのある人間に育つのではないのでしょうか。

(委員長) 家庭、地域、学校の連携のほかに、地域での大人同士のつながりも大切なことかもしれません。

では、幼稚園の件は、家庭教育や幼稚園と家庭との連携について、もう少し内容を膨らませていただくということで、事務局をお願いします。

ほかに、ご意見ございませんか。

(委員) 「終わりに」に書かれている問題は、大きな課題です。市民にわかりやすくという点で、今後どのように家庭を支援するのか、そのための進め方や考え方、施策の具現化について、委員会としての意見をもう少し丁寧に書いた方が良いと思います。

また、小中学校の問題でも、引継ぎや、不登校の児童生徒への支援など、生駒市としてどう進めていくのかを書くべきだと思います。

私が勤務する学校では人的支援をもらっており、不登校の生徒がいれば、担任が忙しい場合は他の先生が家庭訪問に行くこともできます。しかし、小学校では人手が少なく難しいと思います。不登校といっても理由はいろいろで、父親が早朝に出勤するため、母親が夫を送りだしてからもう一度眠るため、母親は子どもが登校する所に起きられず、子どもを起こせないし、子どもも自力で起きられないので不登校気味になっているというケースがあります。指導力のない家庭へは、家庭と学校の連絡役としてOBの校長や園長を活用することも支援のひとつと考えられるのではないのでしょうか。

(委員長) いろいろ意見が出ていますが、内容としてももう少し詳しく書いた方が良いという意見が多いようです。

それでは、初めから確認させていただきます。まず、最初に書かれている現状の把握の部分はこれでよろしいですか。

《 異議なし 》

(委員長) では、2番目の学力向上についての施策の提言ですが、この部分は、これま

で意見が出たように「家庭教育の重要性と家庭への支援」「幼小中の連携」といった課題について、もう少し詳しく触れるとともに、人的支援の中身を加筆するということがよろしいですか。

《 異議なし 》

(事務局) わかりました。確かに、この案は少人数指導等の授業に絞った内容の提言になっていますので、最後のページの冒頭部分の「また、基礎学力の定着のため」の後ろあたりに、「なお不登校の児童生徒宅への家庭訪問や家庭教育のための支援にも、人的支援が学校にとって必要である」というような内容を入れ、具体例をもう少し膨らませて加筆するということがいかがですか。

(委員長) それでは、具体的に文言等で「こう直して欲しい」「こう入れて欲しい」というご意見があれば、お願いします。

特にご意見がないようですので、本筋がこれでよろしければ、事務局で加筆修正されたものを私の方で最終案として調整するという形でよろしいでしょうか。

(委員) 委員長一任ということで良いと思います。

(委員長) ただ今、委員長一任という意見が出ましたが、他の委員の皆様もそれでよろしいですか。また、本日の会議録についても、私が確認するということがよろしいでしょうか。

《 異議なし 》

(委員長) それでは、私の方で責任を持って調整させていただきます。

委員の皆様には、延べ4回にわたり長時間ご協議いただき、また貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。検討委員会の提言として、少人数教育の今後の方向性としては小学校2年生の30人程度学級の実施を、また学力向上については、家庭と

の連携や生徒指導を含めた学校支援として新たな人的支援が必要ということで、まとめさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。今後の予定ですが、1月末の教育委員会の定例会で報告させていただきたいと思います。提言は教育委員会でお預かりし、大切に尊重しながら、今後の事業・施策の実現に向け、取り組んでいきたいと思います。

この後のことは、委員長に一任ということですので、この委員会はこれで最後ということになりますが、公務が重なり教育長は本日欠席ですので、部長から挨拶をさせていただきます。

《 部長挨拶 》

(事務局) それでは、これで閉会いたします。皆様、長期にわたり、ありがとうございました。